

第1章 第二次和光市国際化推進計画の策定に当たって

1 第二次和光市国際化推進計画策定の趣旨

和光市においては、平成13年度に「和光市国際化推進計画」を策定し、「国際感覚豊かな市民の育成」「外国人にも暮らしやすいまちづくり」「姉妹都市関係・多面的な国際交流の充実」「行政の国際化推進」の4つの柱に沿った施策に取り組んできました。

和光市には、現在1,700人以上の外国人が暮らしていますが、国際的な人・モノ・情報の流れが活発化している中で、今後も、さまざまな理由・目的で居住したり働いたりする外国人の増加傾向は継続していくことが予想されます。これに伴い、外国人にとっても日本人にとっても住みやすいまちを築いていくこと、多文化共生¹社会の実現を目指すことの必要性、重要性が高まっています。

第二次和光市国際化推進計画（以下「本計画」という。）は、平成13年度に策定した和光市国際化推進計画に次ぐ計画として、また、平成23年度を初年度とする第四次和光市総合振興計画²の国際化に関する分野について定める個別計画として策定します。

本計画は、和光市国際化推進計画の枠組みを引継ぎながら、現在の社会状況に即した和光市の国際化推進施策について、その基本的指針を示すものです。

2 計画の期間

和光市国際化推進計画の計画期間は、平成13～22年度の10年間でした。この計画は、中間年度にあたる平成17年度に和光市国際化推進懇話会³での審議及びパブリック・コメント⁴を経て見直し、改定後の計画期間は平成18年度から平成22年度までの5年間でした。

本計画の期間は、第四次和光市総合振興計画と同じく平成23年度を初年度とし、平成32年度までの10年間とします。なお、本計画期間内においても、計画の実施状況等を随時調査・検証し、必要に応じて計画の見直しを行うものとします。

1 多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、日本人と外国人が協働して地域社会を支える主体として、それぞれの能力を十分に発揮しながら共に生きること。⇒10ページ

2 第四次和光市総合振興計画

市の最上位の計画で、期間は平成23年度から10年間。将来都市像「**みんなでつくる 快適環境都市 わこう**」の実現に向け、
Ⅰ 快適で暮らしやすいまち（都市基盤）Ⅱ 自ら学び心豊かに創造性を育むまち（教育・文化・交流）Ⅲ 健やかに暮らし
みんなで支えあうまち（保健・福祉・医療）Ⅳ 安らぎと賑わいある美しいまち（生活・環境・産業）を基本目標に掲げている。
国際化の推進は、基本目標Ⅱの分野の一施策として位置づけられている。

3 和光市国際化推進懇話会

市の総合的な国際化推進に関する事項について、調査、研究及び審議する組織。広く市民の意見を反映するため、構成委員は学識経験者及び公募の市民を起用する。

4 パブリック・コメント

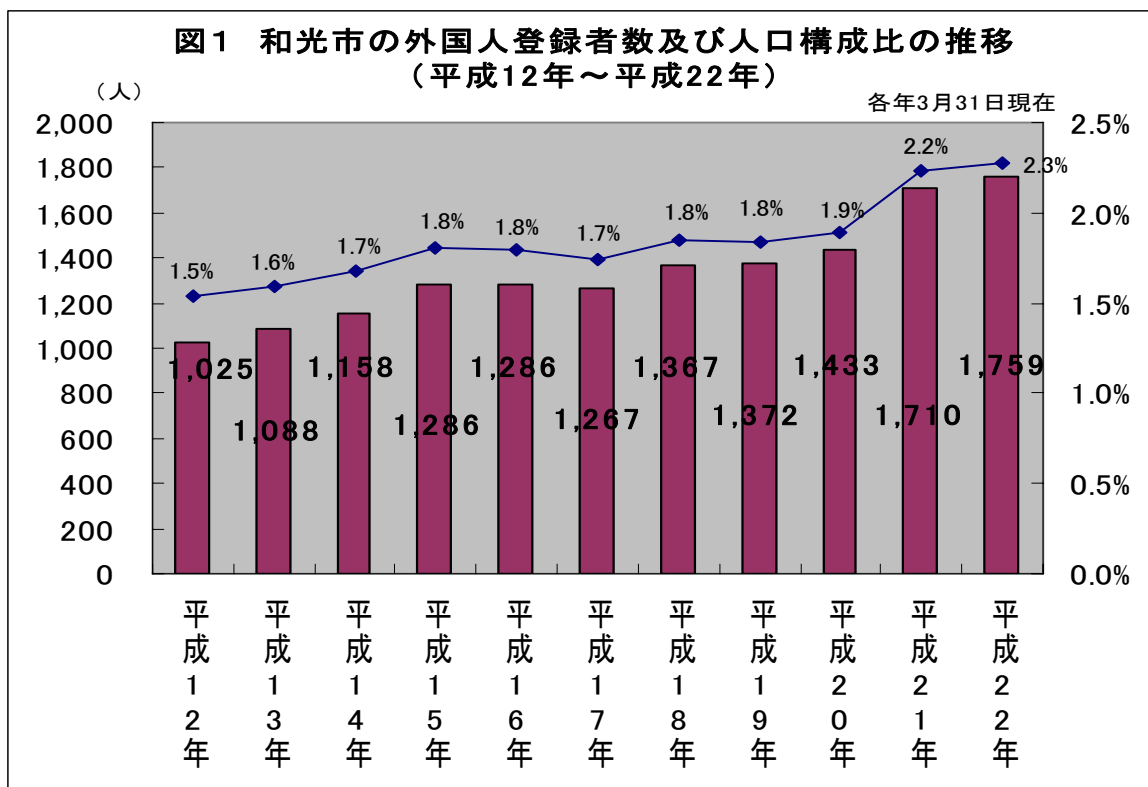
市民参加条例第10条に基づく市民参加の手法の一つ。市の機関が政策等の案について広く市民から意見を求め、提出された意見を検討・反映して意思決定を行うこと。

第2章 和光市の国際化の方向性

1 国際化の現状と課題

(1) 外国籍市民数⁵の推移

和光市における外国人登録者数は、平成22年3月31日現在1,759人で、10年前（平成12年3月31日現在1,025人）と比べると、約1.7倍に増加しました。市民の総人口における外国人登録者数の比率は、平成22年3月31日現在約2.3パーセントで、緩やかではありますが、10年前（平成12年3月31日現在1.54パーセント）から増加していることが分かります（図1、表1参照）。



（資料：戸籍住民課）

⁵ 外国籍市民

和光市に居住している外国人登録者のことであり、本計画においては、外国籍である市民として特筆すべき場合に用いることとする。日本に90日以上滞在する外国人は、居住地の市区町村において登録手続を行うことが定められている。

表1 市民人口の推移

年月日	総人口(人)	外国人登録人口(人)	外国人登録人口の対人口比(%)
2000. 3. 31	66,734	1,025	1.54
2001. 3. 31	68,236	1,088	1.59
2002. 3. 31	68,891	1,158	1.68
2003. 3. 31	71,082	1,286	1.81
2004. 3. 31	71,644	1,286	1.79
2005. 3. 31	72,624	1,267	1.74
2006. 3. 31	73,985	1,367	1.85
2007. 3. 31	74,682	1,372	1.84
2008. 3. 31	75,637	1,433	1.89
2009. 3. 31	76,600	1,710	2.23
2010. 3. 31	77,401	1,759	2.27

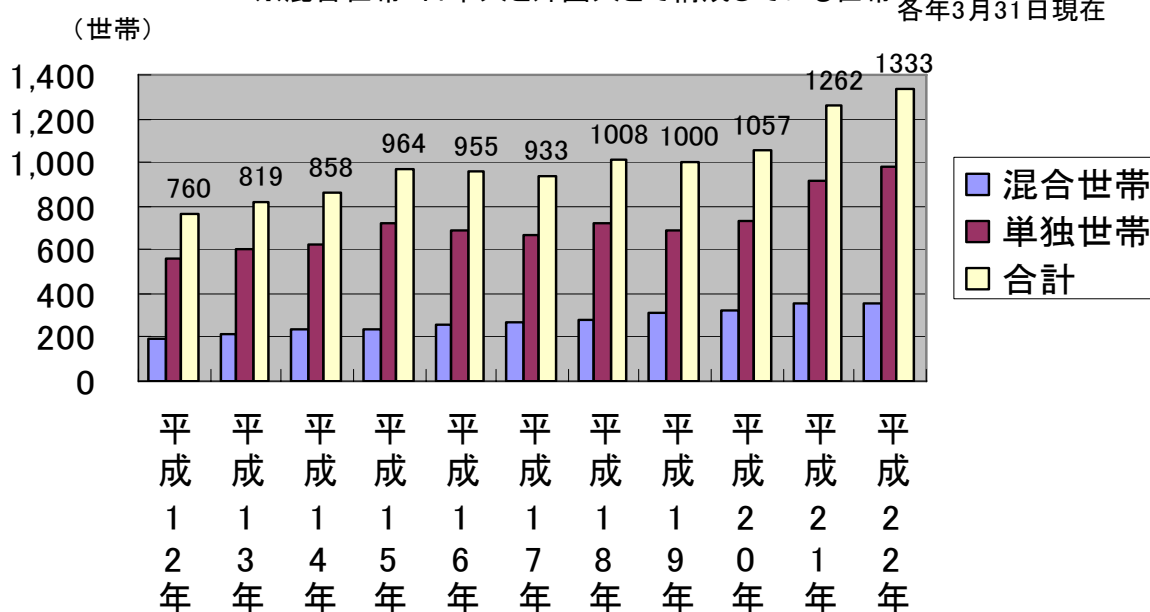
(資料：戸籍住民課)

また、外国人登録世帯数は平成22年3月31日現在1,333世帯で、10年前(平成12年3月31日現在760世帯)と比べ、約1.8倍の増加となっています(図2参照)。この図から、外国籍市民のみで構成する単独世帯の数は、日本人と外国人とで構成する混合世帯の数の2倍以上であることがわかります。単独世帯の外国籍市民は、日本人家族のサポートが得られる混合世帯の外国籍市民に比べて、日常生活を送る上で困った場合に相談できる人が身近にいない場合が多いと考えられます。

図2 和光市の外国人登録世帯数の推移
(平成13年～平成22年)

※混合世帯：日本人と外国人とで構成している世帯

各年3月31日現在



(資料：戸籍住民課)

埼玉県の統計によると、県内には123,593人（平成21年12月31日現在）の外国人住民が暮らしており、和光市は、70市町村中26番目に外国人登録者の多い自治体です。しかし、市町村の総人口における比率では、和光市は9番目に外国人登録者数の割合が高い自治体であることが分かります（表2、3参照）。

表2 県内市町村別外国人住民の状況①（平成21年12月31日現在）

順位	市町村名	外国人登録者数（人）
1	川口市	20,362
2	さいたま市	17,091
3	越谷市	4,798
4	草加市	4,763
5	川越市	4,571
6	所沢市	4,444
7	戸田市	4,313
8	蕨市	3,513
9	熊谷市	2,996
10	朝霞市	2,877
省略		
26	和光市	1,739
省略		
70	松伏町	360
—	合計	123,593

（資料：埼玉県国際課）

表3 県内市町村別外国人住民の状況②（平成21年12月31日現在）

順位	市町村名	割合（%）	外国人登録者数（人）	推計人口（人）
1	蕨市	4.9	3,513	71,313
2	川口市	4.1	20,362	502,066
3	上里町	3.7	1,153	31,095
4	戸田市	3.5	4,313	122,053
5	本庄市	3.3	2,665	81,362
6	八潮市	3.0	2,478	81,334
7	神川町	2.7	396	14,665
8	朝霞市	2.2	2,877	128,759
9	和光市	2.2	1,739	80,210
10	三郷市	2.2	2,824	130,347

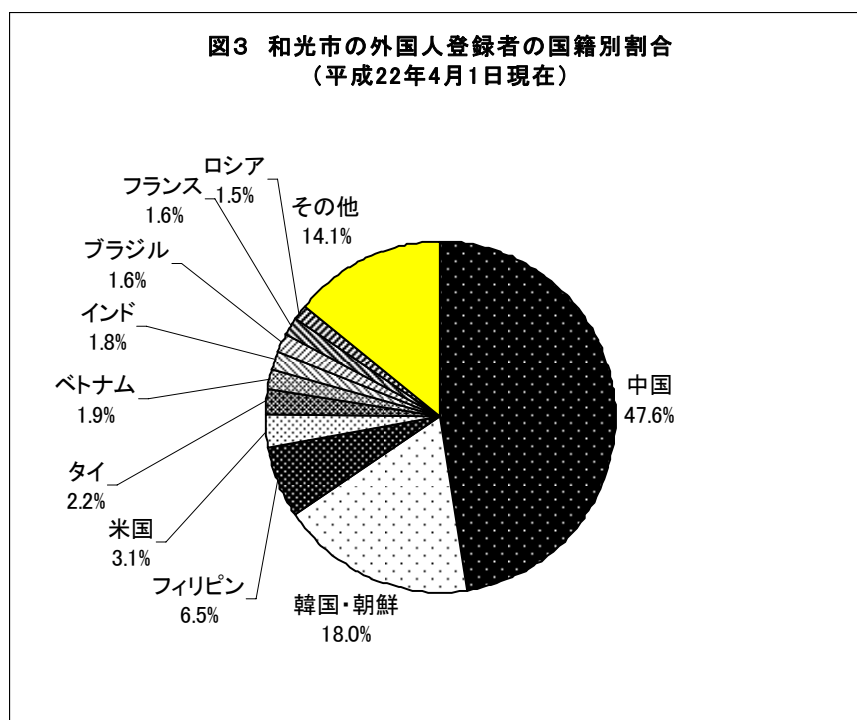
※ 埼玉県の全人口に占める外国人登録者数の割合は1.7パーセント（平成20年

12月末現在）である。

（資料：埼玉県国際課）

(2) 外国籍市民の特徴

平成22年4月1日現在、外国籍市民の出身国は66か国に及びます。国籍別では中国（837人、全体の47.6%）が最も多く、次いで韓国及び朝鮮（317人、17.2%）、フィリピン（114人、6.5%）、米国（54人、3.1%）、タイ（39人、2.2%）の順となっています（図3参照）。全体の70パーセント以上がアジアの出身です。



(資料：戸籍住民課)

図3が示すように外国籍市民の出身国が多岐に渡っている大きな理由の一つに、文部科学省所管の研究機関である独立行政法人理化学研究所⁶や、本田技研工業株式会社などの世界的な企業が所在することが挙げられます。仕事や研究活動等のために日本に滞在する期間はそれぞれ異なりますが、和光市には世界各国から多くの外国人がやって来て、市民となって生活しています。

平成21年の和光市の外国人登録事務の統計によると、市民となる外国人の新規登録及び転入は年間692件（入国及び出生323件、転入369件）であり、市民ではなくなる転出及び出国は年間524件（転出307件、出国217件）です。平成21年12月31日現在の外国人登録者数が1,739人であることから、増加人口は外国人登録者数の40パ

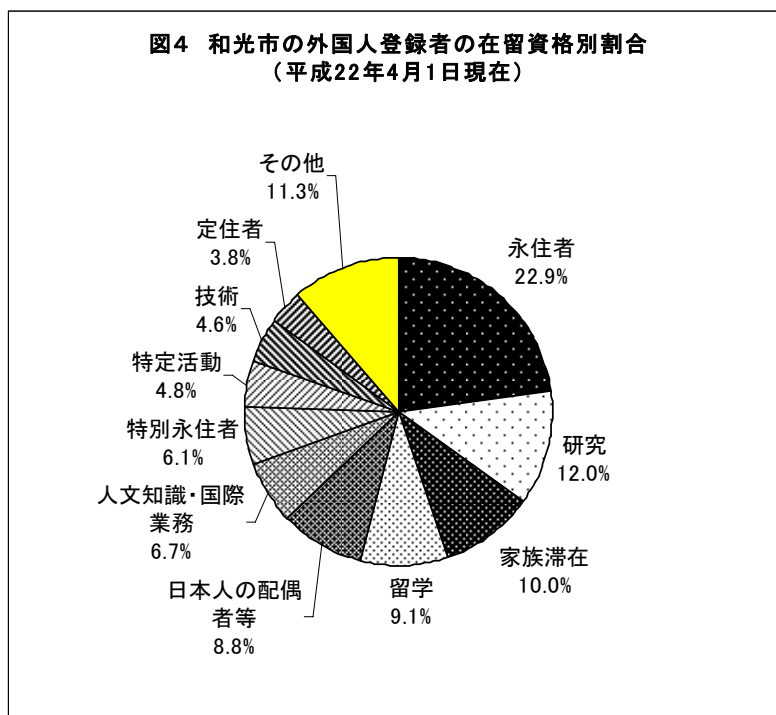
⁶ 独立行政法人理化学研究所

日本で唯一の自然科学の総合研究所として、科学技術の水準の向上を図ることを目的とし、物理学、工学、化学、生物学、医科学などにおよぶ広い分野で研究を進めている。本所及び和光研究所が和光市広沢にあり、そこでは約400名の外国の研究者等を受け入れている（理化学研究所、平成22年5月1日現在）。平成22年10月1日現在、理化学研究所内にある国際交流会館に居住する外国籍市民数は150人、勤務先を理化学研究所で登録している外国籍市民数は258人であり、理化学研究所と関わりのある外国籍市民の割合が高い。

※文中の（独）理化学研究所に係る外国籍市民数は、断りのあるものを除き、全て和光市の外国人登録事務データから抽出したものである。

一セント近く、減少人口は30パーセント強の人数であることが分かります。総人口における人口動態では、増加・減少人口の割合は10～11パーセント強⁷であることから、外国籍市民の転出入人口の割合が非常に高いことが特徴として挙げられます。

外国籍市民の在留資格別では、平成22年4月1日現在で「永住者」が402人（全体の22.9%）、次いで「研究」が211人（12.0%）、「家族滞在」が175人（10.0%）、「留学」が160人（9.1%）、「日本人の配偶者等」が155人（8.8%）の順となっています（図4参照）。



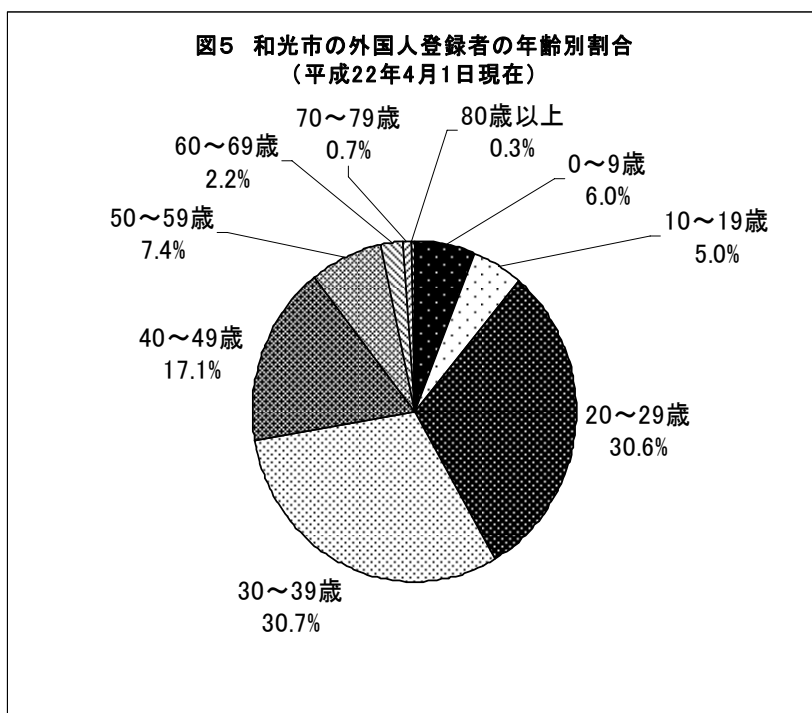
（資料：戸籍住民課）

和光市は、都市近郊の住宅都市として順調に発展し、現在、首都圏有数の交通の要所となっていますが、通勤・通学などの面で都心にアクセスしやすいということが、外国人にとっても大きな魅力の一つであり、「永住者」や「留学」の在留資格を有する外国籍市民が多い理由の一つだと考えられます。「研究」の在留資格は、独立行政法人理化学研究所が世界各国の研究者を積極的に招聘していることが、比較的高い割合を占めている主な理由の一つです。

また、国際結婚や日本人と外国人が家族になることも珍しくなくなり、混合世帯の数も一定の割合を維持していますが（前掲図2参照）、外国籍市民は日本での滞在が長期化すると母国の家族を日本に呼ぶ傾向にあることから、「家族滞在」の資格で短期間滞在する外国人も多く見られます。

⁷ 平成20年度の転入・出生は8,900人、転出・死亡は7,877人であり、平成21年3月31日現在の総人口（76,600人）における増加人口の割合は11.6パーセント、減少人口の割合は10.3パーセントとなる。

外国籍市民の年齢別人口を見ると、平成22年4月1日現在、30～39歳（540人、全体の30.7%）が最も多く、次いで20～29歳（538人、30.6%）、40～49歳（300人、17.1%）、50～59歳（130人、7.4%）の順となっています。この図から、20～50代の外国人登録者が全体の85.8パーセントを占めていることが分かります（図5参照）。



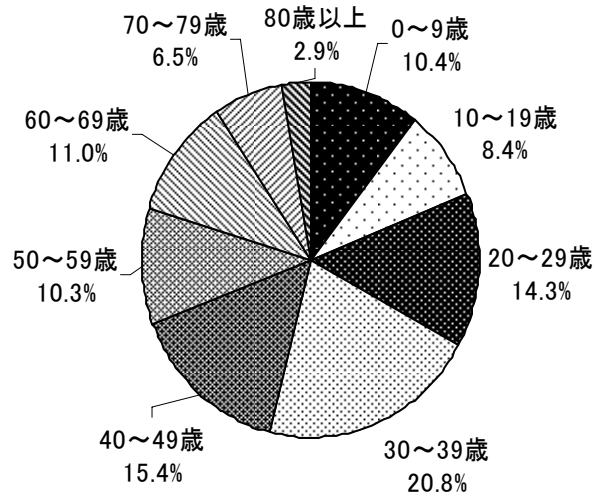
(資料：戸籍住民課)

一方、住民基本台帳人口（日本人）における20～50代の割合は全体の60.8パーセント（平成22年3月31日現在）であり、労働人口の占める割合は、外国籍市民のほうが日本人よりもはるかに高い傾向にあることが分かります（図6参照）。さらに、埼玉県外国人登録者数の同割合（平成19年3月31日現在73.9パーセント）と比較しても、和光市の外国籍市民の労働人口の割合は高いと言えます。これは、前述のとおり和光市が交通の便が良く働き盛りの世代にとって住みやすいまちであることと、多くの外国人を受け入れている研究機関が存在することが要因の一つであると思われます。

また、60代以上の外国籍市民は極端に少ない（全体の3.2パーセント）ことから、和光市に居住する外国人の多くが労働を目的としてやって来て、50代までに転出（出国を含む）するものと思われます。これに対し、住民基本台帳人口では、60代以上の市民（日本人）は全体の20.4パーセントにのびます。

0～19歳の外国人登録者数は、全体の約11パーセント（平成22年4月1日現在193人）です。医療費が市によって助成される乳幼児や、日本国籍であれば義務教育の対象となる子どもの割合は、外国籍市民10人につき1人強です。日本人同様、外国籍市民も共働きの家庭や、子どもの保育を頼れる相手又は手段のない家庭が多いため、保育園や保育クラブの申請を行なうことも少なくありません。

図6 和光市の住民基本台帳人数の年齢別割合
(平成22年4月1日現在)



(資料：戸籍住民課)

(3) 国際化の課題

ここまで、統計的なデータにより外国籍市民の特徴を見てきました。外国籍市民を取り巻く現状を整理すると、大きく次のように述べることができます。

- ・ 日本語能力が十分ではない場合、生活に必要な知識や情報が得られない。また、各種の行政手続に困惑し、生活に不便を感じたり不安を抱えたりしている。周囲の人と意思疎通を図ることも難しい。
- ・ 日常生活を送る上で困った場合に相談できる人が身近にいない場合が多い。また、地域になじめずに孤立する可能性が高い。
- ・ 地域活動や市政への参加に消極的である。
- ・ 外国籍市民を受け入れて尊重するという意識が地域の中に根付いていない。

和光市はこれまで、和光市国際化推進計画に基づき各種の国際化推進施策に取り組んできました。しかし、外国籍市民が安心して市民生活を送れるだけの対策が十分に行われてきたとは言えません。外国籍市民の割合が今後も増加していけば、外国籍市民を取り巻く問題は深刻になっていくことが予想されます。

市民としての権利を有する外国人住民が適切な行政サービスを公平に提供され、地域で孤立することなく、安心して生活を送れる体制を確立することが必要です。さらには、市民同士が助け合い、外国籍市民が社会の構成員として自立し地域づくりに参画できるような社会を築かなくてはなりません。それこそが和光市の「国際化」の最優先の課題です。多くの外国人が立地条件や交通の利便性に着目して和光市を居住の場として選択することが多いようですが、それだけではなく、「住んで良かった」「住み続けたい」と思えるような都市の実現を目指すことが求められています。

そのためには、この課題に対し、行政のみならず、全ての和光市民が協働して地域全体で取り組むことが重要です。日本人にとって住みやすいまち、外国人にとっても住みやすく、また、外国人にとっても住みやすいまち、日本人にとっても住みやすいまちです。⁸外国籍市民にとっても活動しやすく、親しみやすいまちづくりを進めていくこと、つまり国際化という観点からまちづくりを考えていくことが必要です。このことは、地域社会の解放性を高め、地域社会の活性化にもつながるのです。⁹

⁸ 「国際交流のまちづくりのための指針」（昭和63年7月1日）より

⁹ 参考：前掲「国際交流のまちづくりのための指針」、「地域国際交流推進大綱の策定に関する指針」（平成元年2月14日）

2 国際化の理念及び目標

前述の課題に適切に対応し、総合的かつ計画的に和光市の国際化を推進するため、本計画の理念を次のように定めます。

〔理念〕

全市民が多文化共生の意識を持って相互に理解し合い、生活上で抱える問題に対して市民同士で助け合える、安全・安心で活力ある地域社会をつくる。

また、地域（和光）社会の一員としてふるさと意識を共有し、ふれあい、ともに地域の発展に寄与する。

多文化共生とは・・・

国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、日本人と外国人が協働して地域社会を支える主体として、それぞれの能力を十分に発揮しながら共に生きること。

この理念に基づき、国際化の目標を次のとおりとします。

〔目標〕

外国籍市民も安心して暮らせる多文化共生社会の実現

この目標を達成するために、本計画の施策については、次の視点に立ち策定するものとします。

〔施策の視点〕

- ・ 外国人にとって暮らしやすい環境をつくる
- ・ 国際交流〔協力〕活動や国際理解教育を促進し、多文化共生社会の土台を築く
- ・ 海外都市との多面的な国際交流を促進する

3 施策の基本方針

前述の視点に基づき、本計画で定める施策の基本方針は次のとおりです。

(1) 外国人にも暮らしやすい環境づくり

★ この施策の現状と課題

和光市は、庁舎内や市内公共施設の英語併記を進め、重要な情報について多言語化ややさしい日本語¹⁰で提供することに力を入れてきました。市ホームページにおいては、英語版に加えて中国語版(平成21年1月～)とともに、やさしい日本語のページでも情報を発信しています。

しかし、これまで市には外国籍市民の意見や要望を把握する機会が十分にはなく、また、外国籍市民への情報提供方法については統一した基準がありませんでした。

★ この施策の方針

外国籍市民が安心して和光市で暮らすためには、外国籍市民の視点から和光市のあり方を見直し、生活上で抱える様々な問題の解決に取り組むことが必要です。

緊急時の外国籍市民の支援体制に加え、外国籍市民の意見・要望を把握する体制を整備していきます。また、これまで進めてきた外国籍市民のための情報提供を、ニーズに応じて全庁的に推進していきます。

そこで、外国人にも暮らしやすい環境をつくるために、以下のことに力を入れて取り組んでいきます。

○ この施策が目指す将来像

- ・外国籍市民の緊急時の不安が解消されている
- ・外国籍市民が地域住民と同じように行政手続や公共施設を利用できる
- ・外国籍市民が和光市で生活する上で必要な情報を得られる、相談できる

○ 基本的取組

- ・外国人の生活支援の充実
- ・多言語・やさしい日本語による情報提供の充実

¹⁰ やさしい日本語

簡単で分かりやすい日本語のこと。一つ一つの文章が短くすっきりしていて、難しいことばや表現を使わない。簡潔で見やすくするための工夫として簡条書きを用いることもある。

(2) 国際交流〔協力〕活動の促進と国際理解教育の推進

★ この施策の現状と課題

国際交流〔協力〕活動は、現在、地域の国際交流団体等により盛んに行われています。しかし、市民や団体・企業などが相互に協力、支援し合えるような連携機能が充実していません。

国際理解教育については、学校教育においては小中学校における外国語活動及び「総合的な学習の時間」の学習を中心として行われています。社会教育においては、主に生涯学習として多分野の講座を市民に提供しています。

国際交流機会については、市は外国籍市民と市長の懇談会¹¹等のイベントや、ワンナイトステイ事業¹²を実施しています。しかし、市民同士が触れ合える機会としては十分ではありません。

★ この施策の方針

国際交流〔協力〕活動については、国際交流〔協力〕活動を行っている市民や団体等が相互に、及び行政と連携し、ともに地域の国際化を推進していくことが望まれます。和光市国際ネットワーク¹³の構成団体相互の連携を強め、行政との協働による活動を充実させていきます。

国際理解教育については、学校教育では引き続き外国語及び多文化理解の学習を通して児童生徒の国際理解を深めていきます。社会教育においては、今後も外国籍市民のニーズに合った講座を開講するとともに、外国籍市民の施設利用を促進していきます。また、外国籍児童生徒¹⁴に対しては日本語指導¹⁵を継続するとともに、教育に関する相談体制を築いていく必要があります。

国際交流機会については、市民間の交流や多文化共生に関する効果的な事業を行うため、内容、実施時期及び方法を見直し、実施します。

11 外国籍市民と市長の懇談会

外国籍市民が日常生活上抱えている問題や市政に対する意見・要望を把握するために設けた、市長と直接話をする機会。平成18～21年度に計3回実施した。

12 ワンナイトステイ事業

市のホストファミリーを募集・登録し、2種類のホームステイについてホストファミリーの斡旋を行う。①埼玉県ワンナイトステイ事業：埼玉県からの依頼により、外国人（海外の日本語教師）を受け入れるホームステイで、主催は（独）国際交流基金日本語国際センター。和光市ワンナイトステイ事業：埼玉県ワンナイトステイ事業に倣い、平成17年度から開始した和光市独自のホームステイ事業。市内の事業所などに研修や研究のために勤務している外国人を受け入れるホームステイで、事業者等の申請により実施する。

13 和光市国際ネットワーク

構成団体間の情報交換や相互連携により地域の国際化を推進するため、平成15年に設立された組織。市内を中心に国際交流〔協力〕活動を行っている団体、市内の高校、民間企業等で構成されている。事務局は和光市の国際化推進担当。

14 市内の外国籍児童・生徒数

平成21年度の外国籍児童・生徒数は小学生34人、中学生9人。

15 日本語指導員

学校長の申請により日本語指導員を配置し、該当児童生徒の日本語学習を支援する個別対応をしている。平成19～21年度の各年度においては、市内小学校で3人、中学校で1～3名の日本語指導員を配置した。

○ この施策が目指す将来像

- 市民、団体、企業、行政等が相互に連携し、国際交流〔協力〕活動が活発に行われている
- すべての市民が国際理解を深め、多文化共生の意識を持っている
- 市民同士が触れ合える国際交流が盛んになっている

○ 基本的取組

- 国際交流〔協力〕活動の促進
- 国際理解教育の推進
- 国際交流機会の充実

(3) 海外都市との国際交流の促進

★ この施策の現状と課題

和光市は、平成11年10月1日に姉妹都市¹⁶提携を結んだアメリカ合衆国ワシントン州ロングビュー市と、主に海外派遣事業¹⁷を通して交流を深めてきました。しかし、これまでは、海外派遣事業は和光市からロングビュー市への一方向の訪問による交流が中心であり、時代と市民のニーズに合った姉妹都市交流が行われるよう、交流事業の目的や実施手段を見直すことが求められています。また、姉妹都市に関するパネル展¹⁸の開催や市民まつり等のイベント時において姉妹都市のPR活動を実施してきましたが、姉妹都市に対する市民の認知度は高いとは言えません。

一方、姉妹都市以外の海外都市とは、情報交換や交流事業がほとんど行われてきませんでした。

★ この施策の方針

姉妹都市との国際交流においては、儀礼的な交流にとどまらず、人的交流、文化交流、経済交流へとその内容を深めていき活性化を図ることも重要です。そのためにも、姉妹都市に対する市民の理解をさらに深めるよう、PR活動を継続していきます。

姉妹都市以外の都市との交流については、市民間、行政間などにおいて多面的な国際交流が行われることが望まれます。近隣の海外都市との姉妹都市提携を視野に入れた交流を検討するほか、市民による様々な国際交流を支援します。

○ この施策の目指す状態

- ・ 姉妹都市との双方向の交流が活発に行われている
- ・ 姉妹都市以外の海外都市との交流が始まっている

○ 基本的取組

- ・ 姉妹都市との交流の推進
- ・ 姉妹都市以外との交流の推進

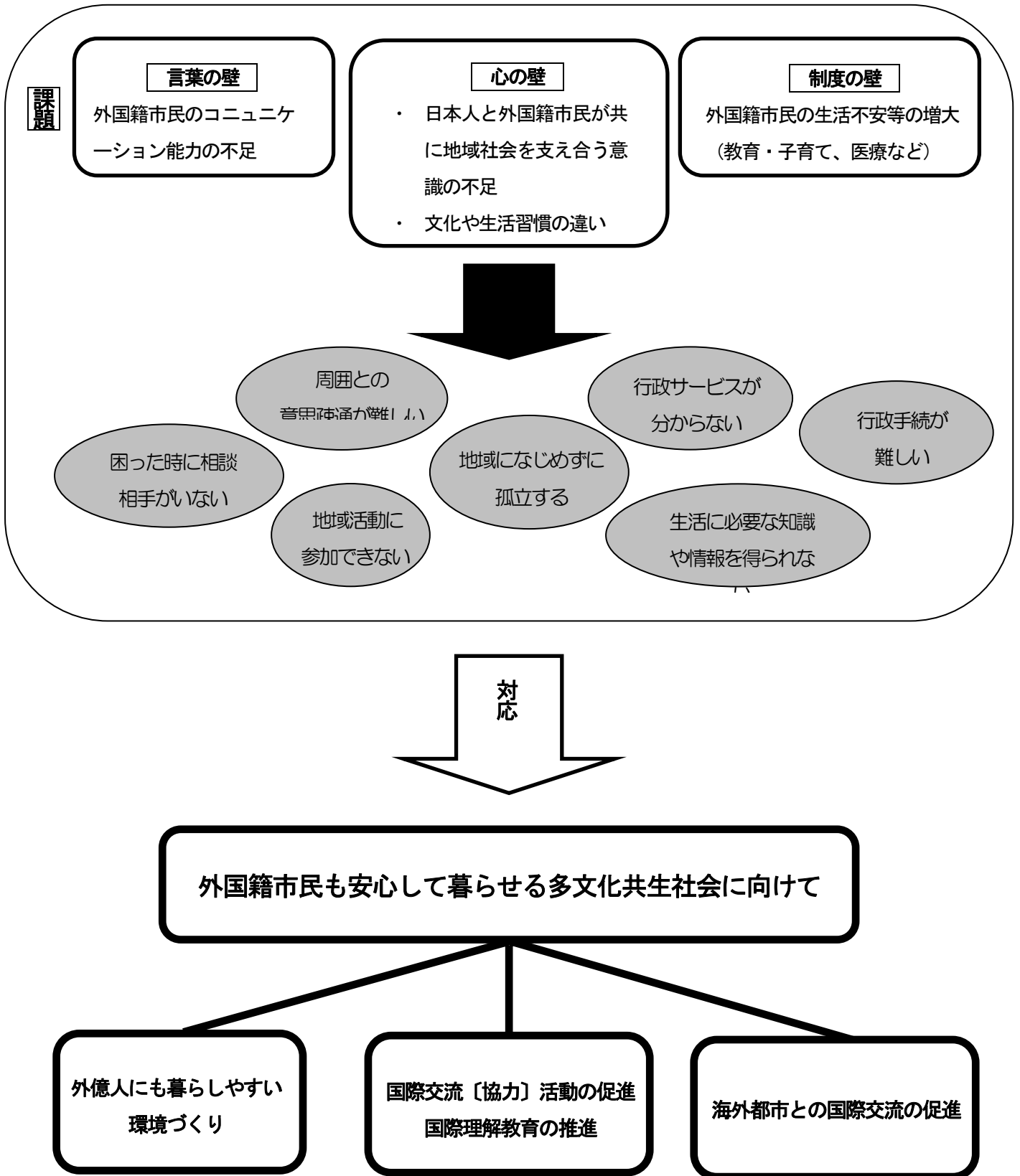
¹⁷ 海外派遣事業

有志の市民を姉妹都市へ派遣する市民海外派遣事業（平成8～12年度と16年度に計6回実施）と、選考された中学生市民を姉妹都市へ派遣する中学生海外派遣事業（平成5～20年度に計15回実施、平成21年度以降は休止）のこと。

¹⁸ パネル展

姉妹都市提携日（10月1日）を記念し、平成17年度から「ロングビューウィーク」と題した姉妹都市PR強化週間を設け、ロングビュー市に関するパネル展示を実施した。

国際化の方向性（イメージ図）



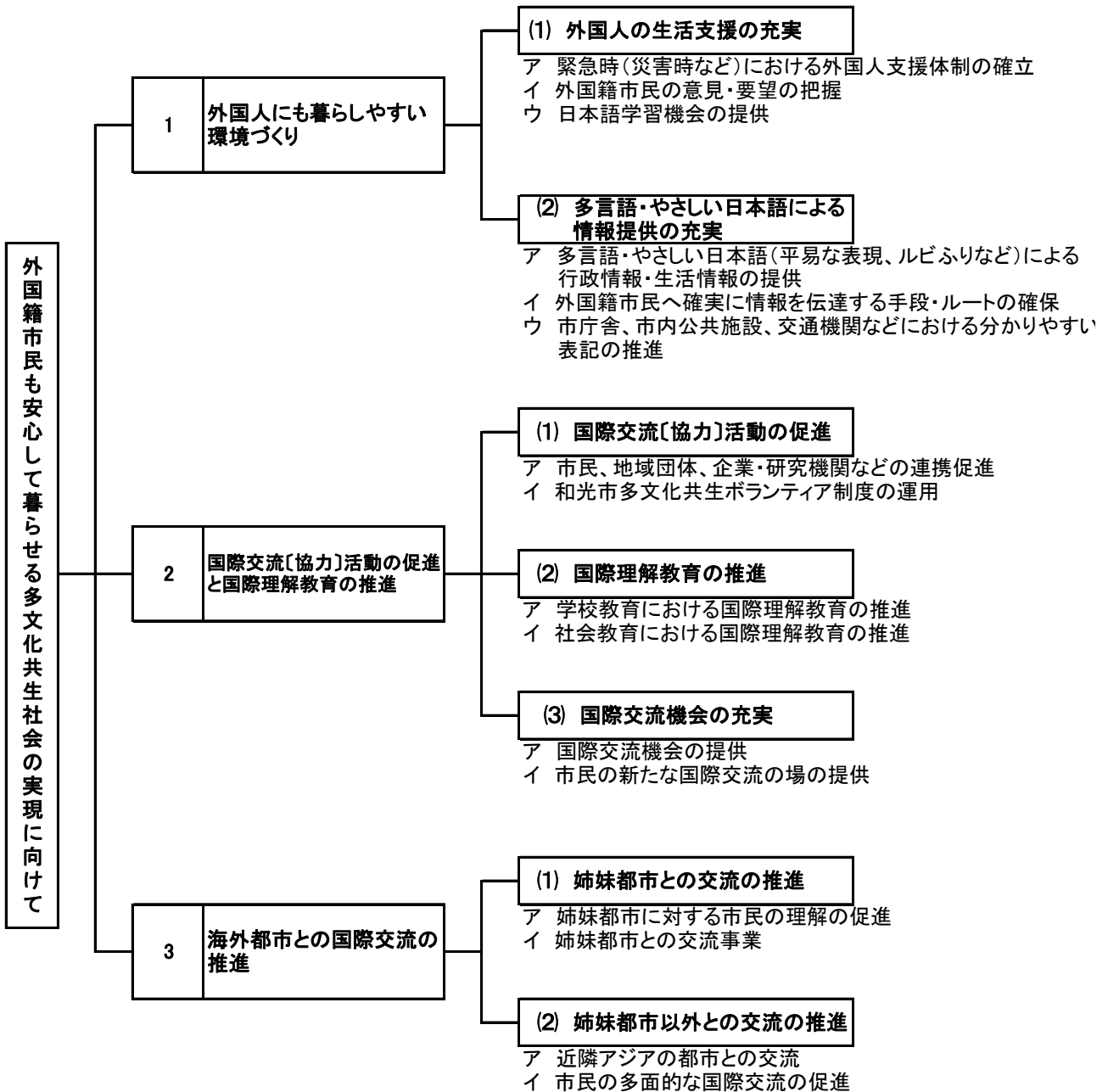
第3章 国際化推進の施策

前章で述べた和光市独自の国際化の目標を達成するため、本計画で定める国際化推進施策の柱は以下の3つです。

- 1 外国人にも暮らしやすい環境づくり
- 2 国際交流〔協力〕活動の促進と国際理解教育の推進
- 3 海外都市との国際交流の促進

◆ 施策の体系図

本体系図中の施策取組は、上から優先順位の高い順に並べています。



1 外国人にも暮らしやすい環境づくり

(1) 外国人の生活支援の充実

緊急時に外国人を円滑に支援する体制を整備します。また、外国籍市民の意見等を把握し、彼らが生活する上で抱えている様々な問題の解消に向けて取り組みます。

- ア 緊急時（災害時など）における外国人支援体制の確立
- イ 外国籍市民の意見・要望の把握
- ウ 日本語学習機会の提供

主な取組	具体的な内容	取組時期 ¹⁹	担当課 ²⁰
緊急時における外国人支援体制の整備	避難所用多言語シートの設置	3年以内	くらし安全課 社会福祉課 人権文化課
	災害時通訳・翻訳ボランティア ²¹ の確保、研修の実施	3年以内	人権文化課
外国籍市民の意見・要望の把握	外国籍市民に対する意見・要望調査の実施	3年以内	人権文化課
	外国人相談体制の整備	5年以内	市民相談室 人権文化課 関係課
日本語学習支援情報の提供	日本語学習支援団体等の紹介	随時	人権文化課

(2) 多言語・やさしい日本語による情報提供の充実

外国籍市民に重要な情報が確実に伝わるよう、情報の提供方法や伝達手段を工夫します。

- ア 多言語・やさしい日本語（平易な表現、ルビふりなど）による行政情報・生活情報の提供
- イ 外国籍市民へ確実に情報を伝達する手段・ルートの確保
- ウ 市庁舎、市内公共施設、交通機関などにおける分かりやすい表記の推進

¹⁹ 取組時期

具体的に取り組み、何らかの成果を出す時期（期限）のこと。「随時」とは、特に目標年次を定めず必要に応じて取り組むべきもので、本計画策定前からの継続事業及び取組を含む。

²⁰ 担当課

和光市役所における担当部署等のこと（表記は五十音順）。国際親善推進の各施策に取り組むのは行政のみではなく、市民、地域団体、企業・研究機関などと連携して進めていく。

²¹ 和光市災害時通訳・翻訳ボランティア

大規模な災害時において外国籍市民に対する通訳・翻訳を担当するボランティアのこと。平成22年度から開始している。

主な取組	具体的な内容	取組時期	担当課
多言語・やさしい日本語による行政情報等の提供	<p>多言語化</p> <p>① 防災、医療情報など生命に関する緊急時の情報</p> <p>② 給付・助成、税金・罰則など権利や義務に関する情報</p> <p>③ 子育て、学校教育、公営住宅など特に重要な生活支援に関する情報</p>	随 時	<p>課税課</p> <p>学校教育課</p> <p>くらし安全課</p> <p>健康支援課</p> <p>建築課</p> <p>こども福祉課</p> <p>資源リサイクル課</p> <p>収納課</p> <p>生涯学習課</p> <p>人権文化課</p> <p>道路安全課</p> <p>保健センター</p> <p>関係課</p>
	<p>やさしい日本語表現、ルビふり</p> <p>① 外国籍市民にも参加を促す行政情報</p> <p>② 外国籍市民の暮らしを豊かにする生活支援に関する情報</p>	随 時	<p>公共施設</p> <p>関係課</p>
	「多言語・やさしい日本語による情報提供の手引」の作成	3年以内	人権文化課
	市ホームページにおける外国人向け情報へのアクセスの簡素化	3年以内	<p>市政情報課</p> <p>人権文化課</p>
	市ホームページ英語版・中国語版・やさしい日本語のページの充実	3年以内	<p>市政情報課</p> <p>人権文化課</p> <p>関係課</p>
外国籍市民への新たな情報伝達手段の開拓	外国籍市民対象の情報誌発行	5年以内	人権文化課
市庁舎、市内公共施設、交通機関などにおける分かりやすい表記の推進	市内の全公共施設における案内表示の英語併記	3年以内	<p>公共施設</p> <p>人権文化課</p> <p>総務課</p> <p>関係課</p>
	鉄道事業者への要望	随 時	<p>人権文化課</p> <p>政策課</p>

2 国際交流〔協力〕活動の促進と国際理解教育の推進

(1) 国際交流〔協力〕活動の促進

市は、市民等の国際交流〔協力〕活動を支援し、ともに国際化を推進していきます。中でも、市民主体の国際交流活動を推進する基盤である和光市国際ネットワークの拡大や連携の強化を図り、和光市発の国際交流活動の発展を目指します。

- ア 市民、地域団体、企業・研究機関などの連携促進
- イ 和光市多文化共生ボランティア²²制度の運用

主な取組	具体的な内容	取組時期	担当課
市民、地域団体、企業・研究機関などの連携促進	市民、地域団体、企業・研究機関などへの情報提供	随時	人権文化課 関係課
	和光市国際ネットワークの支援	随時	人権文化課
和光市多文化共生ボランティア制度の運用	ボランティア制度の周知	随時	人権文化課
	ボランティアの積極的な活用	随時	人権文化課 関係課

(2) 国際理解教育の推進

学校教育においては、外国語活動や「総合的な学習の時間」等を充実させることにより、国際交流〔協力〕に積極的に取り組む資質・能力や、国際社会において自分の考えを表現できる力を育成します。同時に、日本や地域の伝統・文化等についての認識も深めます。

社会教育においては、国際理解に関する生涯学習の機会や場を提供します。市民のニーズに即した外国語や多文化に関する講座を開催し、外国籍市民に対しては日本や和光市の文化等を学べる機会を提供します。

- ア 学校教育における国際理解教育の推進
 - (ア) 特色ある外国語教育
 - (イ) 多文化理解のための教育
 - (ウ) 姉妹都市との教育交流事業
 - (エ) 外国籍児童生徒への支援

²² 和光市多文化共生ボランティア

市役所や市内公共施設の依頼に応じ、外国籍市民に対する通訳・翻訳及び国際化推進事業のサポートを行なうボランティアのこと。平成22年度から開始している。

イ 社会教育における国際理解教育の推進

(ア) 外国語や多文化に関する講座などの充実

(イ) 外国籍市民にとって有用な学習機会の提供

主な取組	具体的な内容	取組時期	担当課
特色ある外国語教育	英語指導助手（AET）及び外部指導者の積極的活用	随時	学校教育課 小中学校
多文化理解のための教育	「総合的な学習の時間」における国際理解教育	随時	
	小・中・高で連携した国際理解の学習	随時	
姉妹都市との教育交流事業	教育交流事業の研究	10年以内	学校教育課 人権文化課
外国籍児童生徒への支援	小中学校における日本語指導員の配置	随時	学校教育課 小中学校
	教育相談体制の整備		
外国語や多文化に関する講座などの充実	市民の多様なニーズに対応した講座の開催	随時	生涯学習課 公民館
	外国人講師の登録制度の活用	3年以内	
外国籍市民にとって有用な学習機会の提供	日本語教室など外国籍市民にとって有用な講座の開催	5年以内	生涯学習課 公民館 関係課
	日本や和光市の伝統や文化（茶道・華道など）に関する講座等の開催	随時	
	外国籍市民の参加・利用促進		
	外国籍市民に有用な情報の整備	5年以内	人権文化課 図書館 関係課

(3) 国際交流機会の充実

外国籍市民同士、外国籍市民と日本人市民が交流できる機会を提供し、多文化共生の意識の普及を図ります。

ア 国際交流機会の提供

イ 市民の新たな国際交流の場の提供

主な取組	具体的な内容	取組時期	担当課
国際交流機会の提供	ワンナイトステイ事業の実施	随時	人権文化課
	交流会や多文化共生に関するイベントの実施	随時	人権文化課 関係課
市民の新たな国際交流の場の提供	市民のふれあいの拠点づくり	10年以内	人権文化課 公民館 関係課

3 海外都市との国際交流の推進

(1) 姉妹都市との交流の推進

市民の国際感覚及び相互理解を深めるため、姉妹都市であるロングビュー市（アメリカ合衆国ワシントン州）の周知に引き続き取り組み、交流事業についてはそのあり方を研究します。

- ア 姉妹都市に対する市民の理解の促進
- イ 姉妹都市との交流事業

主な取組	具体的な内容	取組時期	担当課
姉妹都市に対する市民の理解の促進	姉妹都市を周知するイベントの実施	5年以内	人権文化課 関係課
	姉妹都市に関する情報の提供	随時	人権文化課
姉妹都市との交流事業	交流事業の研究	10年以内	人権文化課

(2) 姉妹都市以外との交流の推進

共通点や共通の課題を持つ近隣都市等と、市民間・行政間の様々な形態の交流を推進します。

- ア 近隣アジアの都市との交流
- イ 市民の多面的な国際交流の促進

主な取組	具体的な内容	取組時期	担当課
近隣アジアの都市との交流	近隣都市の調査・研究	5年以内	人権文化課
市民の多面的な国際交流の促進	スポーツ・文化・教育など、時代とニーズに合った海外都市との交流の促進・支援	随時	関係課

第4章 国際化推進体制

1 国際化推進体制における役割

現在、国際交流〔協力〕活動は、市民や地域団体など様々な単位及び多様なスタイルで、広範囲に行われています。和光市の国際化を進めるためには、市民、地域団体、企業・研究機関などがそれぞれの役割を果たし、相互に連携しながら推進していく必要があります。

(1) 市民、地域団体、企業・研究機関等の役割

ア 市民の役割

国際化推進の主役は市民です。市民一人ひとりが多文化共生の意識を持ち、地域社会の一員として生活上における諸問題に関して助け合うことが望まれます。

日常生活の中で、自分にできる国際交流や外国籍市民に対する配慮について考えたり、外国人の立場に立って物事を見たりすることが求められます。市内で困っている外国人を見かけたら積極的に声をかけるなど、身近なことから行動に移すことが期待されます。

外国籍市民は、時には出身国が同じ人やコミュニケーションがとりやすい人同士で協力し合うことも必要です。また、外国籍市民は、日本人と同じく和光市にとって貴重な人材です。市政や各種イベント等に積極的に参加することが、市民や市全体の国際理解や多文化共生の意識を高めることにもつながります。様々な機会で自国の文化や歴史、自己の経験などを積極的に紹介、発表し、市民同士の交流を深めていくことも必要です。

イ 地域団体の役割

地域における国際交流の担い手であるそれぞれの団体が積極的に国際交流〔協力〕活動を行いながら、団体間、企業・研究機関及び行政と連携し、地域の国際化に貢献することが望まれます。また、和光市国際ネットワークによる活動が盛んになり、和光市国際ネットワークが地域の国際化を効率的かつ効果的に推進する上で中心的な役割を担うことが期待されます。

ウ 企業・研究機関等の役割

市民や地域団体と同じように地域社会を構成している市内の企業や研究機関等も、市民、地域団体及び行政と連携しながら地域の国際化に貢献する役割を担うことが望まれます。地域の国際化に関心を持ち、各種イベントや研修に参加、協力するなど、積極的な姿勢が求められます。また、外国人の雇用者でもある企業や研究機関等は、外国人の日常生活に関して適切な支援を行うことも必要です。

(2) 市の役割

市は、多文化共生社会の実現に向けて、市民、地域団体及び企業・研究機関等との連携・協働による国際化推進施策を通して、国際交流〔協力〕活動を促進し、外国人にも暮らしやすいまちづくりを進めていきます。また、国際化に関する情報を収集し、積極的に市民に公表します。本計画についても周知を行い、国際化推進施策の実施状況及び進捗状況も定期的に報告します。

市内の各公共施設においては、利便性を高め、外国籍市民の利用を促し、行政サービスが適切に提供されるよう整備に努めます。

2 市の国際化推進体制の強化

前述の役割を果たすため、市は以下の取組によって国際化推進体制の強化を図ります。

(1) 庁内の国際化推進体制の整備

市役所及び市内公共施設における外国籍市民の対応を適切に行うためには、関係各課所の緊密な連携が欠かせません。そのためにも、職員一人ひとりの意識改革及びスキルアップが求められます。全庁的な国際化推進体制を確立するため、次の2点に取り組みます。

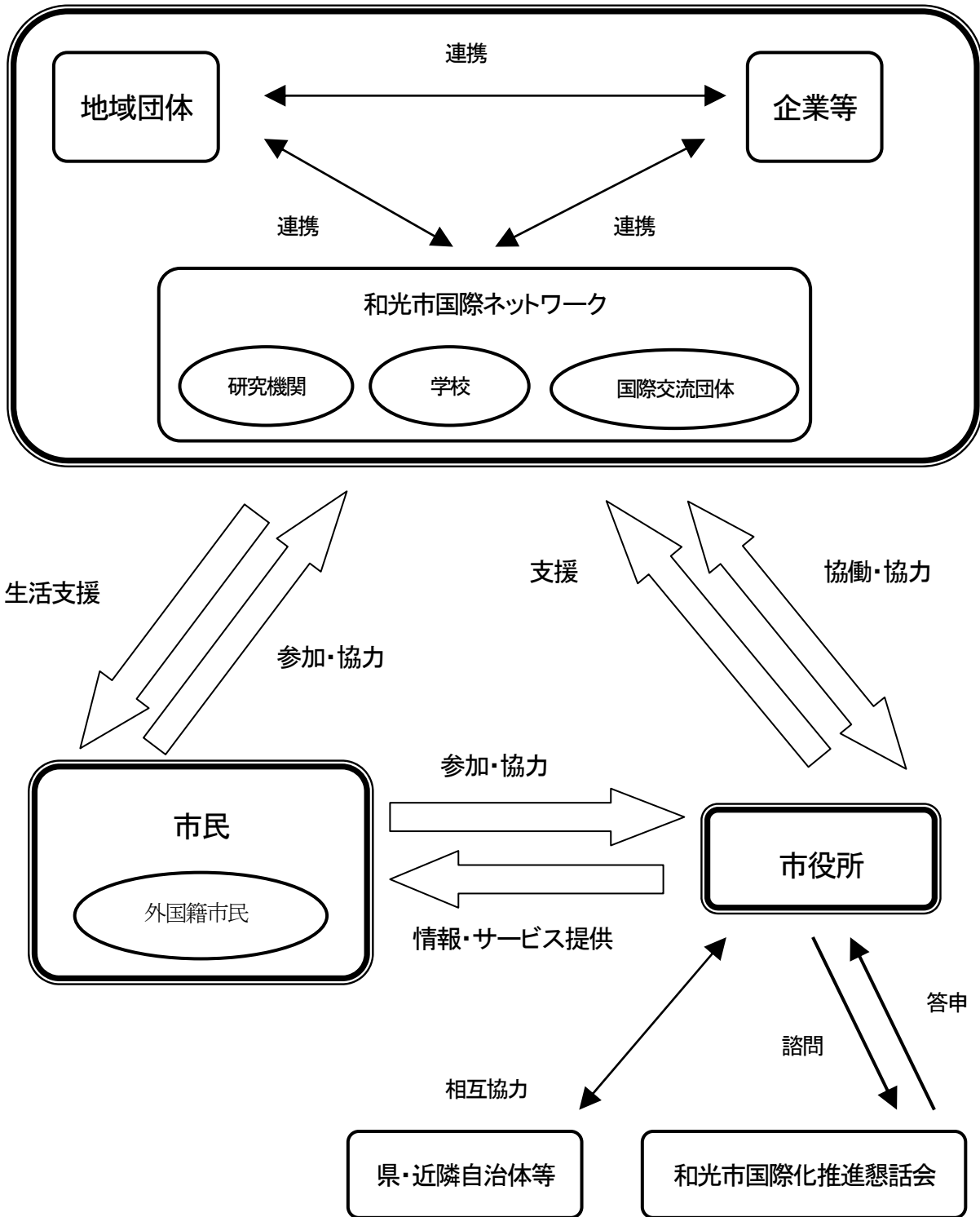
- ・ 各課所等の連携強化
- ・ 職員を対象とした国際化対応研修の充実

(2) 市民、地域団体、企業・研究機関及び他行政機関との連携

「和光市」という地域全体で国際化を進めるために、市は、市民や地域団体等と対等な関係で連携・協働する仕組みを整える必要があります。また、他行政機関と連携して地域の国際化を進めていきます。国際化の推進に当たり適切な連携関係を築くため、次の2点に取り組みます。

- ・ ボランティアの育成、組織化及び地域団体の支援
- ・ 近隣自治体、県及び関連機関との情報交換及び相互協力

本計画の推進体制（イメージ図）



参考資料

- 1 和光市国際化推進懇話会設置要綱
- 2 和光市国際化推進懇話会委員名簿
- 3 第二次和光市国際化推進計画策定経過

※後日掲載

※裏表紙掲載

第二次和光市国際化推進計画

平成23年3月

発行：和光市企画部人権文化課

〒351-0192 埼玉県和光市広沢1番5号

電話番号 048-424-9088 (直通)

FAX 048-464-1234

Eメール a0400@city.wako.lg.jp

ホームページ <http://www.city.wako.lg.jp/>